

## 第19回 熊本市市民公益活動支援基金運営委員会議事録（要旨）

1 開催日時：平成28年9月30日（金） 14時00分～

2 開催場所：熊本市役所 12階会議室

### 3 市民公益活動支援基金運営委員

- ・出席者： 古賀 倫嗣 委員長（熊本大学教育学部教授）  
佐藤 和弘 副委員長（株式会社 地域総研 代表取締役）  
越地 真一郎 委員（地域づくりアドバイザー）  
中島 久美子 委員（特定非営利活動法人 熊本県子ども劇場  
連絡会 理事長）  
松枝 清美 委員（公募市民）  
井上 学 委員（市民局市民生活部長）
- ・欠席者： 田上 聖子 委員（経済観光局文化・スポーツ交流部長）

### 4 配布資料

- 資料1 冠基金の運用について
- 資料2 審査項目の見直しについて
- 資料3 審査基準（詳細）
- 資料4 様式第9号 事業計画書（案）
- 資料5 助成申請スケジュールについて
- 参考資料① スケジュール案

### 5 会議録（要旨）

#### 【報告事項】

冠基金の運用について

（資料1に基づき、事務局より説明）

（古賀委員長）

この件について、ご質問あるいはご意見はあるか。

（委員全員、意見等なし）

（古賀委員長）

これまで本委員会では、分野指定別による運用を廃止し、運用の改正、見直しを行ってきた。これは報告事項という位置づけであるが、性格上本委員会の了承を得たものとさせていただきたいが、よろしいか。

（委員全員、了承）

(古賀委員長)

それでは、原案通り承認とする。

**【審議事項】**

(1) 審査項目の見直しについて

(資料2、3、4に基づき、事務局より説明)

(古賀委員長)

事務局からの提案は2つ。まず1つが審査項目について、特に「熊本らしさ」についての項目を「まちづくりへのビジョン」に改め、審査対象を明確にしたいという提案である。それに伴って、資料4に事業計画書の案が示されている。まずは、この審査項目についてご意見を伺いたい。

(佐藤副委員長)

これまで何回か審査に関わったなかで、特に事業計画性と公益性を重視してきた。とりわけ公益性については、事業の性格上、いかに公益的な目的を持って事業をなさっておられるのかというところが非常に大きいと考えている。そのため、審査項目の名称を「事業計画性」と「公益性」に改めたことでそれがより明確になり、また、「まちづくりへのビジョン」という名称についても、審査項目としてより適切なものになったのではないかと理解している。

(古賀委員長)

審査基準の説明はそのままのものもあるが、今発言があったように名称を「事業計画性」、「公益性」に変えることでよりわかりやすいネーミングになったのではないかと、ということだった。他の委員の方でご意見等はあるか。

(越地委員)

資料2の改正案は、赤字が変更になった部分か。それであれば、「公益性」の説明が少し違っているようだが。

(事務局)

文頭の「その事業により」という部分だけ、説明が二重になっていたため削除した。

(越地委員)

その点は了解した。その下の「まちづくりへのビジョン」だが、これは「熊本」という表現を「熊本市」に改めることで、よりイメージを明確化したということか。

(古賀委員長)

そういった意図でよろしいかと。

(越地委員)

その意図はよくわかるし、またこれでいいとも思う。ただ一方で、「熊本市」と明記することで今度は逆に活動の範囲が狭まるということに繋がらなければいい案かと。

例えば、熊本市で何かやるにしても、自ずとその波及効果があり、この「熊本市」という表現は県全体への波及を目指す活動などに絡みやすい問題かと思う。その時に、熊本市の基金であるため「熊本市」と明記するのは構わないと思いつつ、申請する側がちょっと萎縮したり、遠慮したりする部分があると逆効果かなという点もある。そこは審査をするときに考慮すればいいとは思いますが、一方で熊本市だけに限定した波及効果じゃないとまずいようだとすれば、ちょっとこじんまりとしたものになるきらいがあるのではないかと、そういう危惧がある。

(中島委員)

今ご指摘のあった熊本市という視点についてだが、現行の説明には「熊本に愛着を持ち、どんな熊本にしたいのか、どんな熊本の未来につながるのか」とあり、中でも「地域課題に焦点を当てた」という文章はとても重要な観点かなと思うので、その部分は大切にしながら、そこから熊本市全体が事業をバックアップしていくと捉えると、いろんな活動が広がっていくのかなと思うが、いかがだろうか。

(古賀委員長)

今ご指摘のとおりだが、事務局提案としては、地域課題という言葉よりもまちづくりと言い換えた方が、より広い理解が得られるのではないかという趣旨もある。その他に、申請される側に立ってみると、地域課題と言ったときに「地域」がどこを指すのかという点に戸惑いがあるのではないか。

そのあたりは、「熊本市」と限定されてはいるが、含みとしては熊本市を含む周辺といったニュアンスで了解していただければよいのかなと。

(越地委員)

こちら側が幅広く考える余裕があれば、それでいいかなと思う。例えば、前回大気汚染を考える会が採択になっているが、大気汚染なんていうのは市の事業を超えていろいろと発展する問題でもあるし、そういうものがいっぱい出てくる。当然、熊本市にあるものは県全体を睨んだものという意味で連動していることがあり、これは評価すべきだと思う。

文言は「熊本市」で構わないと思うが、それに対して、今度は我々がそこに限定して「これはよそ向きじゃないの」とか、「枠が広すぎなんじゃないの」となるとは逆効果ということ。

(古賀委員長)

ご指摘のとおり大気汚染問題もそうだし、本基金の制度設計時に「地域の課題」として例示したものが地下水の問題だった。そうした意味で、熊本市を含むもっと広い範囲での地域に関わる課題の提案等も、きちんと議論して対象とする、という確認をいただくということはどうだろうか。地域課題という言葉は確かに大事だが、正直言ってそれがわかりにくいということがこれまでの審査の中での課題だったと伺っている。

(中島委員)

わかりました。では、地域課題を含めて「熊本市づくり」という活動の中に見出しながら進めていくということで。

(古賀委員長)

広い意味でまちづくりへのビジョンということ。そのあたりが全体の項目を繋げて、審査観点という意味では総合的な観点になるのかと。

(佐藤副委員長)

これはあくまで運営委員側の受け取り方、考え方だと思うが、私はこの「まちづくりへのビジョン」の「ビジョン」というところが非常に重要だと思う。つまり、熊本に対するどういう想いで事業をやろうとしているのか、そこからどういう風に社会に貢献していくのかということをはっきりと謳ってあれば、委員がご指摘のように熊本市自身の問題であっても、それを他に応用していくことだって出来る。そのため審査規定をきちっとさせて評価する方が、曖昧にならなくていいのかなという気がする。しかも、当基金は、熊本市が県下に先駆けてやった事業なので、この辺は寧ろ熊本市というものをアピールするのにいいのではないかと、そんな考え方でいた。

(越地委員)

文言はこれでいいと思っている。ただその背景として、こちら側がそこら辺まで懐深くもつべきであり、市限定のイベントで終わらせようという気持ちじゃ寂しくなる。ここを大事にしたい。

(古賀委員長)

それでは、審査項目の文言についてはこれを了承し、委員の方からご意見があったように、募集要項の中にただ今の意見交換の結果に基づいて、その趣旨を織り込んでいただくということでもよろしいか。そのあたりは事務局の方でご検討いただければと思うのでよろしくお願ひしたい。

それでは2点目の配点の問題だが、従来の各項目5点というA案と、それに対して今回10点での配点を考えてはどうかということ。このことについてご意見、ご質問等がありましたらお願ひしたい。

(越地委員)

私は10点の方がやりやすい。やっぱり5点ではメリハリがつけにくい。1点、2点というのは極端だし、通知表と一緒に、やっぱり3点が標準でそれよりちょっと上回ると4点。すると、選択の範囲が非常に狭まり似たような点数になる。そこは、その場合100点あってもいいぐらいだが、それは極端だとして、10点というのが点数をつける場合に強弱、メリハリをつけやすい。こっちの方が私はやりやすいかと思う。

(佐藤副委員長)

私も同じ思い。事業計画性や公益性と言っても、その中にいろんな考え方がある。あくまで案ということではあるが、資料3に示していただいた項目の詳細を見ても、市民ニーズ適合性も「ニーズ把握力」と「ニーズ適合性」と2つ、事業計画性も「目的達成」と「遂行力」で2つある。それを考えたときにも、1項目5点ずつに配分して審査することができる。

また、委員が仰ったように、私もこれまで、平均以下だけれども2点にすると物凄く評価が低くなってしまおうときに、3点と2点では大きく違いがあると感じていた。そういう意味では評価にゆとりができ、同じような平均点であっても、5点満点の3点と10点満点の6点と7点ではまた違うと考えられるため、私もこの10点配点の方がやりやすいという感触を持っている。

(古賀委員長)

他にご意見はあるか。

(中島委員)

10点の方がやりやすい。柔軟性があって評価しやすいと思う。

(古賀委員長)

今のご意見では、各項目10点で合計50点満点になる。特にご異論がなければそういった形にさせていただきたいと思うが、よろしいだろうか。

(井上委員)

今の佐藤委員のご意見のように、各項目に詳細な審査項目が2つずつあるため、それを5点ずつ配点してもいいし、トータル10点満点で評価してもいい。それをあらかじめ審査基準として決めてしまうのか、各委員の裁量に任せるのかというところがあるが、その辺も含めて10点の方がやりやすいんじゃないかと思っている。

(古賀委員長)

それでは、全会一致で、5点を10点に改めるということで承認いただいたとさせていただきます。

(2) 助成信施スケジュールの変更について

(資料5、参考資料①に基づいて、事務局より説明)

(古賀委員長)

助成申請スケジュールについて、なかでも公開プレゼンテーションの時期を少し早めたいという提案だが、どうだろうか。特に中島委員はNPO法人の役員をされておられるが、提案理由として挙げられた繁忙期について、何か補足の意見があれば。

(中島委員)

助成を受ける団体にしても、3月は報告業務などで忙しい時期であり、できれば提案していただいた2月で進めていただけるとありがたい。

(古賀委員長)

どちらかという申請する団体の側に立って便宜を図りたいという趣旨だが、いかがだろうか。他にご意見等なければ、これについては原案どおり承認とさせていただきたい。

(委員全員、了承)

**【次回委員会の開催について】**

(事務局より、次回委員会の日程について説明)

**【閉会】**

(古賀委員長)

これをもって、第19回市民公益活動支援基金運営委員会を閉会とする。

(終 了)